彼女

田渕靖章

人物

榊原雅敏（21）トラックトライバー

竹内勇雄（20）榊原の友人

細川隆史（21）榊原の友人

○山の上の駐車場

車、一台だけ止まっている。

○車内

運転席に座っている榊原雅敏(21)、緊張した面持ちで、正面を向いている。
助手席に座っている竹内勇雄(20)、後部座席に座っている細川隆史(21)、榊原を見ている。

竹内「覚悟はできたか？」

榊原、正面を向いたまま小刻みに頷く。

竹内「じゃあ頑張って来いよ！」

榊原、車の扉を開けて外に出る。

○山の上の駐車場

榊原、外から車の扉を閉める。
細い通路を歩いて行く。

○車内

竹内、助手席に黙って座っている。

竹内「ちょっと飲み物買って来るわ」
と、外へ出て離れて行く。
後部座席の細川、スマートフォンを取り出し画面を見る。
画面には圏外と表示されている。
椅子にもたれかかって目を瞑る。
榊原、扉を開けて運転席に乗り込む。
細川「あれ、早いな。どうしたの？」
榊原「前とは雰囲気が全然違う」
細川「そりゃ時間がたてば女は変わるさ。そんな事より、もう許してくれたの？」
榊原、顔を横に振る。
榊原「やっぱり、許してもらえる気がしない」
細川「何があったのか知らないけど、そんな短時間でごめんなさい、はい、いいですよとはならないよ」
榊原、黙って細川をじっと見る。
細川「俺は深入りしないよ。頼まれた限りは、力を貸すけど」
榊原、無言で小さく何度も頷く。

○山の上の駐車場

榊原、車の運転席から降りると、細い通路の方へと歩いて行く。

○車内

助手席に竹内、後部座席に細川、座っている。

竹内「あれだけの事をすれば、簡単には許してくれないだろうなー」

と、缶ジュースの蓋を開けて一口飲む。

細川「そんなひどい事を？」

竹内、頷く。

竹内「でも、良くある事だし、そろそろ解決するよ」

細川、窓の外を見る。

細川「また戻ってきたぞ」

窓から、細い通路を通ってやって来る榊原の姿が見える。

榊原、扉を開けて運転席に座る。

竹内「どうなった？」

榊原「前の事は、悪気がないって謝った」
竹内「それで？」
榊原「何も言わないけど」
　と、ニヤリと笑みを浮かべる。
　竹内、笑みを浮かべて榊原の肩を叩く。
竹内「なら、あと少しだな。ってか、いちいち戻って来るなよ！早く解決してこい！」
　榊原、急いで車から出て行く。
　窓から榊原が走って細い通路に向かう姿が見え、その先に消えて行く。
細川「その女性って、どんな人なの？」
竹内「お前も2年前に一度会ってるんだよ」
細川「全く覚えてないな」
竹内「相変わらず人に興味ねえなー。まあ、だから頼もしいんだけどな」
細川「竹内は親しかったのか？」
竹内「親しくはないけど、何度も会ってるよ」
　と、視線を落として、ため息を吐く。

○山の上の駐車場

榊原、通路から歩いて来る。
竹内、車の助手席から降りて来る。
竹内「どうだ？」
榊原、立ち止まると、親指を立てる
竹内「やっと解決か」
榊原、嬉しそうに笑みを浮かべる。

○車内

細川、後部座席に座っている。
竹内、後部座席の扉を開ける。
竹内「問題が解決したらしい」
細川「そうか」
竹内「じゃあ、真由美さんに会いに行こうぜ」
細川「別に興味ないよ。俺はお前らに呼ばれて、応援しに来ただけだし」
竹内「会わないと応援できないんだよ。なっ」
細川、車から降りる。

○細い通路

榊原、竹内、細川、歩いている。

その先から、公園が見えてくる。
榊原、突然道をそれ、獣道を進みだす。
竹内、続く。
榊原、立ち止まって、通路の先の公園を見てから、榊原と竹内を追いかける。

○獣道

榊原を先頭に、竹内、細川、生い茂った雑草を払いのけながら、進んで行く。

○広場

榊原を先頭に、竹内、細川、雑草を払いのけながらやって来る。
その先に、汚れた車が捨てられている。
榊原「あれだ」
と、汚れた車の元に走る。
竹内、細川、榊原の隣にやって来る。
榊原、トランクを開ける。
細川、中を見ると驚いて一歩下がる。
細川「なんだこれ！」

　と、表情を硬直させる。
　中には女性の死体が入っている。
　竹内、笑みを浮かべて細川を見る。

竹内「そっか、細川は元の真由美さんしか見た事なかったんだ」

細川「お前ら、何をしたんだ？」

　竹内、細川を見て笑う。
　榊原、ゆっくりと細川の方を見る。

竹内「心配するなって。ここならバレない」

　細川、目を逸らす。

細川「俺は何も見てない。向こうに行くよ」

　榊原、無表情に細川を見続ける。

竹内「細川、応援してくれるって言っただろ。後は穴を掘って埋めれば解決だ」

細川「頼む、俺を巻き込まないでくれ」

　細川を見ている榊原、険しい表情になって、数秒すると背を向ける。

榊原「連れて来る相手を間違えた」

　竹内、呆然と榊原を見る。
　榊原、トランクの中の女性の頬に手を

当てる。
榊原「せっかく真由美が今日、俺を許してくれて、解決したのに……」
細川「おっ、俺は何も見てない」
榊原「嘘をつくな！」
声がこだまする。
榊原「真由美も同じ事を言った。でも嘘だった。あれは近藤が悪いんだ。それなのに」
と、握りこぶしを作って振動させる。
竹内、榊原に寄って行く。
竹内「(小声)……どうする？」
榊原「こいつは俺達と無関係でいるつもりだ」
竹内「それじゃ、こいつも後で真由美さんみたいに俺達を……」
榊原「間違いない」
竹内「こいつも口では手伝うとか応援するとか言っといて裏切るのか……」
と、怒った表情になり細川を睨む。
榊原「近藤をやったのは俺の愛の大きさからだ。それなのに、真由美は俺を犯罪者を見

るような目で見て、その場しのぎの言葉で」

竹内「榊原はそこまで真由美さんを愛してたから、近藤をやったんだよな」

榊原「その愛を裏切ったんだ。このクソ女は。だからこうなったんだ！」

と、ゆっくりと竹内と細川を睨む。

竹内「お前の態度は警察に告げ口する裏切者そのものだ。だから仕方ないんだ。夢に出て来るなよ。友達だろ」

榊原「大丈夫さ。さっき真由美も解ってくれたんだ。細川も解ってくれるさ」

と、トランクから、真由美と一緒に入っている刃物を手に取る。

竹内、トランクからハンマーを取る。

細川、泣きそうな表情になる。

細川「やめろ。このままじゃ刑務所行きだ」

竹内、ニヤリと笑う。

竹内「ここなら見つからないって。私有地だから警察は入って来ないんだ」

細川、驚いたように呆然とする。

榊原「後は穴を深く掘って、埋めれば解決だ。掘るのが大変なだけで、絶対に見つからない。最高の場所だ」

と、竹内と一緒に細川に近づいて行く。

細川、ゆっくりと笑顔になる。

○山の上の駐車場

返り血と泥まみれの姿の細川、満面の笑みを浮かべながら歩いて来る。

車の運転席の扉を開け乗り込む。

○車内

笑顔の細川、ダッシュボードから布を取り、泥と返り血をふき取る。

鍵を回してエンジンをかける。

女性の歌う明るい音楽が流れる。

○山の上の駐車場

車内から明るい女性の音楽を漏らしながら、車はゆっくりと走り去って行く。

田渕靖章